

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団	
施 設 名	横浜能楽堂	
助成対象活動名	公演事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	21,307	(千円)
公 演 事 業	14,052	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	7,255	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	特別企画公演「花開く伝統-日台の名作と新作-」	平成30年6月9日、17日	演目：新作「繡襦夢」ほか 出演者：温宇航、劉珈后、常磐津文字兵衛 ほか	目標値	628
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	731
2	企画公演「風雅と無常—修羅能の世界」	平成30年9月22日～平成31年3月23日	能「敦盛 二段之舞 脇之語」(観世流) 観世喜正 龍笛独奏：安齋省吾、管絃：豊英秋ほかほか(全6回+特別講座)	目標値	1,539
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	2,494
3	横浜能楽堂・伝統組踊保存会提携公演「能の五番 朝薫の五番」	平成31年2月9日	能「道成寺」(宝生流) 宝生和英 ほか 組踊「執心鐘入」 佐辺良和ほか	目標値	314
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	459
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,481
				実績値	3,684

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第66回横浜能	平成30年6月2日	狂言「佐渡狐」(和泉流)野村万蔵 ほか 能「砧」(金春流)櫻間金記 ほか	目標値	314
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	469
2	眠くならずに楽しめる能の名曲	平成30年12月16日	お話「土蜘蛛の正体」中村雅之 狂言「仏師」(大蔵流)善竹隆平 ほか、能「土蜘蛛」(観世流)坂真太郎 ほか	目標値	314
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	446
3	横浜能楽堂次世代育成プロジェクト①「山本東次郎先生の狂言の時間」	平成30年8月11日	狂言「呼声」(大蔵流)山本則俊、狂言「髭櫓」(大蔵流)山本東次郎	目標値	315
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	480
4	横浜能楽堂次世代育成プロジェクト②	平成30年8月7日～平成31年3月31日	「入門編」実技体験と公演鑑賞 「卒業編」稽古 「横浜こども狂言会」発表会	目標値	19
		横浜能楽堂 本舞台、第二舞台		実績値	26
5	横浜能楽堂次世代育成プロジェクト③	平成30年6月28日～平成31年1月28日	狂言「柿山伏」鑑賞、質疑応答、実技体験(教育プラットホーム) ほか	目標値	430
		各小学校、横浜能楽堂 本舞台		実績値	439
6	バリアフリー能	平成31年3月17日	狂言「附子」(和泉流)三宅右近 ほか 能「大会」(宝生流)大坪喜美雄 ほか	目標値	314
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	375
7	横浜能楽堂ミニ施設見学会付き和のワークショップ	平成30年11月3日～平成31年2月23日	中村雅之(横浜能楽堂館長)、梅若紀彰(シテ方観世流)、山本則重(狂言方大蔵流) ほか	目標値	192
		横浜能楽堂 本舞台、第二舞台、旧レストランスペース		実績値	352
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,898
				実績値	2,587

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

下記のとおり事業を組み立て、予定通り事業を遂行。

#### (1) 能、狂言その他の古典芸能の振興と発展

公演①で日本の古典音楽と台湾の崑劇を融合し「繡襦夢」を創作。公演②では能とそれに関連する文化芸能を併せ上演することで、観客の能の理解を深めた。普及啓発②では新演出の間狂言を上演した。以上で伝統の継承と発展に寄与。

公演②で修羅能をテーマに様々な角度で能を掘り下げ、芸術性の高い公演を提供。

普及啓発の一連の事業において、次世代育成と愛好者の拡大に寄与。特に普及啓発②⑦では、多くの新規観客獲得につながった。

各公演で英文解説の準備、公演①で繁体字での字幕配信も実施。普及啓発⑥では様々なサポートを用意し、アクセシビリティの拡大を実現。

#### (2) 能、狂言その他の古典芸能による 地域社会への貢献

公演①では横浜中華街の各団体より協力を得て開催。公演③で川崎の沖縄関係のコミュニティと連携、広報協力を得た。

普及啓発②⑦では、日頃来館する機会のない層への周知と来館促進を図り、能楽と市民が出会う空間を創造した。

今年度、魅力の発信準備として、ユニークベニューとしての利用案内を作成。

普及啓発⑥では、多様性を相互に尊重し合える土壌を醸成し、観客や関係者の理解を深めた。（公社）能楽協会の公演へノウハウ提供も行っている。

#### (3) 伝統を軸とした幅広い国際交流

公演①で台湾の国光劇団と共同制作を行い、日本の古典音楽と崑劇のコラボレーションを実施。

通訳ボランティア向けに堂内見学会を開催し、国際都市・横浜の都市イメージの発信と都市ブランド形成に寄与した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

「古典芸能で自国の伝統に誇りを持つ 現代に生きる力をはぐくむ」というミッション達成のため、地域の文化会館、民間業者、その他コミュニティと連携し、上記事業を遂行。また、地域・来館者のニーズをふまえ設定した目標もほぼ達成し、観客から高い評価も得ている。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 公演事業

指標1(対象=全事業) 入場率はすべて達成

指標2(対象=全事業) 公演への満足度もすべて達成

指標3(対象=全事業) 初めての来場者率もすべて達成

指標4(対象=全事業) 新聞、HP等の露出による広報実績もすべて達成

指標5(対象=全事業) アンケートや聞き取りによるお客様の声は高い評価を受けることができた。

#### 事業番号①

・日本舞踊と崑劇、共同作品もとても良かった。新しい試みが表現されていてとても楽しめた。  
・公演内容は大変すばらしく満足でした。崑劇と長唄が両方楽しめるすばらしい企画をありがとうございました。今後も定期的な芸術交流を続けていただきたい。

#### 事業番号②

・凄いのを見せて頂いた感銘があります。本物の観音懺法とあわせるという企画も本当に得がたかった。

・大変満足です。はじめの雅楽の演奏でタイムスリップしたような心地から、能に入っていく構成も素晴らしかったです。能の内容も非常に見応えがあった。

#### 事業番号③

・能と組踊の主演2人とも素晴らしい熱演で感動。比較しながら観賞して、表現の違いや関連性があったこともわかった。

指標6(対象=①③) 広報協力回数もすべて達成

#### 普及啓発

指標1(対象=全事業※教育PFを除く) 入場率(参加率)はすべて達成

指標2(対象=全事業) 公演への満足度もすべて達成

指標3(対象=①②③⑥) 初めての来場者率もすべて達成

指標4(対象=全事業※教育PFを除く) 新聞、HP等の露出による広報実績については、⑤のみ対象が限定されるため公に広報をしていないため目標値を下回った。それ以外の事業は達成

指標5(対象=⑥) 後援・協力団体数も13団体で達成

指標6(対象=⑥) サポート利用数は次年度より設定。今年度実績としては、字幕タブレット貸出数=13  
副音声機器貸出数=84 パンフレット事前送付=33 メールパンフレット利用数=21 駐車場利用数=8となった

指標7(事業=⑤) 次世代育成への効果も8件で達成

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間については、公演①において当初より国光劇団（台湾）との取り決めの中で、2公演を実施することで決定しており、計画通りに開催。また、公演②では、より企画趣旨に沿ったシリーズ構成にするため、公演と特別講座を追加し、5回シリーズから6回シリーズ+講座の形式に当初より、変更を加えた。その他の事業においてはすべて計画通り実施した。

収支については、公演事業の3公演において、当初の計画よりも経費が増加した公演もあったが、収入を増やすことで収支バランスを取った。また、公演③については、今年度に入り他の公演の内容とのバランスを鑑み、チケット料金について再検討を行った。おおむね収支についても、計画通り進めることができた。

また、普及啓発⑦については、より地域のニーズに即したものをテーマとして扱うために調査を重ね、年度内での内容決定となった。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

(1) 劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在  
館長が芸術的内容に関する責任者としての役割を担っており、能楽専門館としてより高い芸術性と質の高い企画公演とともに、海外の芸術団体とのネットワークを活かし、伝統を軸とした幅広い国際交流の実現を可能としている。昨年出版された著書「眠くならない能の名作60選」が、初心者でも親しみやすい能を分かりやすく紹介しており、その視点からの公演や施設見学会を実施し、新規来場者獲得に貢献。その他、吉祥寺薪能、飛鳥山薪能等でも解説をし、横浜能楽堂の知名度を高めている。  
運営責任者も同様に館長となるが、大学院や公文協研修で講師としてアートマネジメント論等の講義を行い、運営の裏付けとなる理論的な構築をふまえた運営が可能となっている。  
また、制作者には、プロデューサー2名が企画立案や制作・運営を行うことで事業全体を円滑に実施。さらにプロデューサーは若手スタッフの育成も行い、外部研修などに参加し知識を広げ、より質の高い事業の実現・継続を目指す。  
舞台技術者は株式会社シグマコミュニケーションズに委託し、能舞台の特性と使用の制約を熟知した技術者が舞台利用の管理を適切に遂行している。

(2) 公演の企画内容、作品の芸術性の独創性、先導性等  
公演①・②・③では、他ジャンルとのコラボレーションを行い、新規顧客を獲得するとともに、他ジャンルとの相乗効果による芸術性の高い公演が実現。公演①では、平成30年度に他館でも上演され、令和1年度には再演が予定されるなど、その独創性、先導性が評価されている。

(3) 普及啓発の企画内容  
敷居の低い能楽堂をめざし、普及啓発②や⑦における「館長が案内する横浜能楽堂見学と能楽のイロハ」「能楽師が案内する横浜能楽堂見学と狂言ワークショップ」などを開催することで、日頃来館する機会のない層への横浜能楽堂周知と来館促進を図ることができた。特に、普及啓発⑦では、三菱地所レジデンスクラブのほか、近隣公立施設である青少年センター、近隣民間業者であるハクビ着物学院と連携し、さまざまなきっかけで来場を促すことができた。  
普及啓発④・⑤は、質の高い講師のもと、公演鑑賞、実演できるワークショップ、学校での体験教室、教諭への狂言講座といったさまざまな取り組みにより、次世代を担う子どもたちに古典芸能に触れる機会を提供できた。

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

公演①では横浜中華街の各団体より協力を得て開催し、公演③では川崎の沖縄関係のコミュニティと連携、広報協力を得た。その他、普及啓発①では市内の能楽実演・愛好者団体である横浜能楽連盟と共催し事業を継続している。また、普及啓発⑦では、近隣の企業や公立施設等と連携し、相互に顧客や事業の幅を拡大することができ、地域の発展につながった。普及啓発⑥では、横浜市内の障がい者団体に事前にニーズをヒアリングを行った上で、意見を取り入れ事業の改善を行っている。また視覚障がい者のための施設見学会においては中区社会福祉協議会からの紹介により誘導ボランティア2名を、公演当日には西区社会福祉協議会からの紹介によりボランティア3名を活用した。さらに今年度は（公社）能楽協会の公演（7/31国立能楽堂「ESSENCE能～バリアフリー対応～」）へのノウハウ提供も行っている。以上のとおり、地域の文化会館、民間業者、その他コミュニティ等連携することで、それぞれのニーズを把握し、そのニーズを取り入れて各事業を遂行した。  
近隣のマンションや店舗へのチラシ配布を行うほか、横浜市、また横浜能楽堂のある横浜市西区で配布される広報誌に多く掲載され、地域への広報を実施した。そのほか、WEBやTwitterでも情報発信を行い、より多くの方に情報発信を行い、横浜能楽堂の事業の周知を行った。

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当財団では「人材マネジメントポリシー」において、求められる財団職員像、職員が果たすべき基本的な役割、職員に求められる能力・知識、人材育成の基本的な考え方を明確化。その中で専門人材の育成を重要視している。その方針に則り、各自がMBOで目標を定め、事業を通じてスキルの向上をはかる。また職員の階層別研修、専門研修も実施。横浜能楽堂ではその他事業に必要な研修も適宜受講。MBOの振り返り面談を実施し、職員の目標の到達度について評価。評価、研修内容を基に、事業・制作手法の改善、制作ノウハウの共有を行う。助成金により、より幅広い内容の事業を実施できたことで、幅広い事業制作スキルの習得が可能となり、横浜能楽堂の経営資源の強化につながった。

また、事業の幅の広がり、観客層の拡大、横浜能楽堂の知名度の向上を目指し、他の公共施設、地域コミュニティとの連携を計画。公演①では単館での事業実施に加え他の伝統芸能施設（豊田市能楽堂、新潟市民芸術文化会館）との3館連携を実施。財団内施設では連携事業（横浜美術館（広報協力）、横浜にぎわい座等）は適宜実施。またこの数年は、当館の位置する文教地域・紅葉が丘に立地する近隣文化施設5館（神奈川県立音楽堂/図書館/青少年センター、横浜市民ギャラリー及び当館）の事業/広報のネットワーク化を進めており、本助成事業についても本館利用者以外への積極的なアプローチを展開。各事業での入場率、顧客満足度、初めての来場者率等で評価。各事業で評価を活かしノウハウを共有・蓄積、近隣館との連携強化による紅葉ヶ丘のブランド力アップにつながった。

以上のとおり助成金を事業の実施により、幅広い事業制作スキルの習得、他館とのネットワークを通じて「古典芸能で自国の伝統に誇りを持つ 現代に生きる力をはぐくむ」という横浜能楽堂のミッションを実現するための機能の強化につながった。